

## ○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきました。若木町の牟田でございます。「議長より登壇の許可をいただきました」という言葉を、もうかれこれ60回ほど使わせてもらっています。約60回この一般質問をさせてもらっているんですけども、この程度の質問しかできませんけれども、考えてみれば、いろんな先輩方のアドバイス、そして、例えば今この議場の中にいらっしゃる現議員のいろんな質問の切り口、やり方、そういうのを大変勉強させていただいております。本当にありがたいことです。そしてまた、初当選からいろんな資料集めや指導をしていただいた議会事務局を初め職員の皆さん方には本当に感謝しております。さらに、この議会にお送りくださった市民の皆さん方に、できるだけ私の質問が物の役に立つように頑張っていきたいと思っております。

うまくいった質問もあるかなと思いますけれども、やっぱりやりしかぶった質問も結構あります。平成に入って、歴代の市長さんに質問させてきていただいております。その中で樋渡市長は、質問のボールをぽんと投げたら、ぱしっと返ってくるわけですね。大変私も質問がやりやすいですし、市民の皆さん方も、テレビ見ている方々もわかりやすい質問になっていると思います。今からする質問が、市民の皆さん、そして、武雄市の身になることを祈りまして質問に入らせていただきます。

今回出している質問は2項目、1項目めは産業について。産業についてはイノシシとか観光、農業、景気についてお伺い、要望を立てていきたいと思っております。2項目めは周辺部対策ですね。これはもう3月の私の議会の恒例行事になっております。必ず周辺部対策を3月議会には入れるということで、この60回の中ずっと入れて3月議会ではさせてもらっております。きのうも1番上田議員の質問の中で、子どものおらんごたあイベントは寂しかと。やっぱり子どものおらんぎ盛り上がらなばいということを言われておりました。確かにそうだと思います。ちょっと調べました。山崎議員の地元の橘町、現在のゼロ歳児の数は16人です。橘町ですね。これは今までで最低の数字です、歴代の中でですね。小柳議員、古川議員の地元の武内町、ゼロ歳児は20名、今現在ですね。山口昌宏さんの地元の東川登町は昨年と同じ12名。石橋議員の地元の西川登町19名です。杉原議長の——あとちょっと多いんで名前を呼びませんが、山内町は70名のゼロ歳児がいらっしゃいます。ただし、これは人口9,510人に対しての70名ですから、比率は0.7%です。占める割合は0.7%です。北方町、これもいっぱいいらっしゃいますんで数だけ言います。59名。8,303名の中の59名ですから、これは0.6%を割っております。朝日町、これも何人かいらっしゃいますね、59名。朝日町はふえているんですね。地元の若木町、松尾議員もいらっしゃいます。13名。だんだん減ってきております。（「武雄町は」と呼ぶ者あり）武雄町を忘れておりました。失礼しました。武雄町は182名です。この10年間で多いんです。ずっとふえております。減っているところをちょっと中心に言おうかなと思って言いませんでしたけれども、武雄町、これは後から言おう

かなと思って数字だけは調べていました。武雄町はこの10年の中でもゼロ歳児の数は多いほうです。この辺のところを要望、質問等を行っていきたいと思います。

では、最初の1番目の質問の産業から。これはイノシシが出ていましたね。イノシシは12月議会でも私は質問しました。12月議会といいましても、1月にしましたけれども。この本会議の質問の中でもイノシシ出ました。浦議員やったですかね、イノシシ加工所。開所式でイノシシ肉をいただきました。感想はエクセレント、英語を使っちゃいましたけれども、本当おいしかったです。小池議員もおっしゃっていました。ヨーグルトとハチみつに漬け込んだイノシシ肉絶品だったと、あの小池議員と言っちゃおかしいですけども、この農業のスペシャリストが、例えばイノシシと一緒に育ってきたような小池議員が、それがおいしいと、初めてこがんおいしかと食べたばいと言われるぐらい、私もおいしかったです。ですから、せっかくですから、イノシシの肉——肉にはいろんな種類があります。牛、おいしいですね。豚もおいしいです。若楠ポークおいしいです。鳥もおいしいです。その中で、今から武雄市はイノシシ肉をPRしていかなきゃいけない。イノシシ肉と牛とか、ほかのお肉、どのような違いがあるのか。まず、その辺のところをPRを兼ねてお伺いしたいと思います。1個目の質問です。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

イノシシ肉の特徴といたしましては、血液さらさら成分のDHA、ドコサヘキサ塩酸、それとEPA、イコサペンタ塩酸、もう二度と言えないような酸が血液さらさら成分を多く含んでいるようです。それぞれお肉は特徴があります。牛肉は牛肉のよさ、鳥は鳥のよさ、ポークはポークのよさがありますので、そういった意味で、私ちょっとお医者さんに聞いてよかったのは、組み合わせると一番いいと、組み合わせる。ですので、そういった意味で、今の武雄が出しているお肉にさらにイノシシが加わることによって、さらに武雄の魅力が増すのではないかというふうに思っております。血液さらさら。

**○議長（杉原豊喜君）**

25番牟田議員

**○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

血液さらさらというのはいいですね。私は血液どろどろみたいです。

これはちょっと余談になりますけれども、不況の中、売れている物。何でか健康に関するやつはよく売れているんですね。例えば、一番わかりやすいのがWi i フィット、Wi i の中で一緒にフィットネスするやつで、あれ爆発的に売れて、今でも物すごく売れているらしいです。健康に関することですから、血液さらさらというのはもちろんそういうPRができると思いますし、このイノシシのやつをずっとやっていくと。他自治体から、この前、新聞

に開所式があった、新聞に載りましたね。ほかの自治体から連絡ありました。見に行きたいと。どういうふうなものだと。伊万里市からも連絡がありました。ほかの自治体からもありました。そして、太良町からもあったんですかね。いろいろな自治体から、もちろん市役所に直接問い合わせもあったかもしれませんが、我々議員のもとにもいっぱい問い合わせがありました。本当は、例えば、この質問の席で、じゃ、こんなに問い合わせが多いんなら広域圏でやったらどうなんだろうかと、いろんな広域圏でやったら、補助金もいっぱい集まるし、その中心を武雄に、武雄が先じて手を打ったわけだから、やったらどうかという質問を考えていたんですけれども、これはちょっと担当にお伺いしたら、無理だと。というのは、イノシシを売って、何分以内に届けてもらわなきゃいけないという、その時間の都合があると。伊万里の山でとれたのをこっちに持ってくると、その間に肉質が落ちてしまうと、そういう問題があるんでちょっと難しいですというふうなことをいただきました。実際、武雄市はそうやって新聞に大きく取り上げられています。

長崎県の江迎町でイノシシを約10年ほど前からそうやって加工して売っているところは、酒屋さんで、私、ずうっと昔からの仲間です。そして、これも10年ほど前に行きました大分県の宇目町ですね、トトロの里とかいろんなことをやっていらっしゃるところなんですけど、そこもイノシシラーメンというやつをもう既に出されていました。各地で、広域圏がだめで、伊万里市さんとか、ほかの鹿島市さんとかなんとか、同じような加工所をつくって販売されたら、やっぱり競争になるわけですね。そういう中で、どういう手を打たなきゃいけないか。これも昨日、繰り返しになりますけれども、浦議員の質問のときに、これだけニュースバリューになって、武雄の名前が売れたと。レモングラスという販売拠点を持っているから、そっちのほうでやりたいというふうなことを言われていましたけれども、1つ、こういうことをやったらどうなんだろうという御提案でお伺いなんですけれども、これも1番議員のきのう質問ですかね、上田議員の質問で、武雄駅というのを物すごくきのう取り上げられましたよね。そこで、はたと考えました。佐賀県で今どういうふうなものを、食がヒットしているんだろうと、全国で見ても。佐賀でいろいろ、有田の、前ここの議場で言いましたけれども、焼カレーという駅弁ですね。駅弁です。武雄にイノシシの駅弁をいち早くつくったらどうなんだろう。これもインターネットで調べたら、全国で今1例だけあります。兵庫県の篠山口駅でやっている。ただ、これは昭和66年からやられているわけですね。唯一のイノシシ弁当らしいです。（発言する者あり）失礼しました。昭和じゃないです。1966年、昭和42年から。それでも唯一だそうです。ただ、九州・山口含むまで、例がないと。そういう中で、今度、10年後、9年後になるかもしれませんが、新幹線が来る。それまでに武雄のイノシシ弁当というやつをいち早く手を挙げたら、今からいろんな開発に着手したら、それはもういい効果を及ぼすんじゃないかと。これやっていないからニュースにもなると思います。そういうふうな、我々子どもどものころ、鳥栖に行ったら、シューマイというのが頭の中にある、今

でもあるんですね。鳥栖はついでに立ち食いそば、うどんも有名だったけど、やっぱり印象に残っているわけです。今、デパ地下、東京によく市長行っていらっしゃると思うんですけども、私もたまに行ったとき、デパ地下で全国の駅弁云々というやつをやっていますよね。そういう中で、そういう駅弁の開発、イノシシに関する、それにレモングラスとかプラスして、イノシシの駅弁というやつを今から開発したら、10年後の新幹線開通、そして、今現在の武雄としての情報発信としてできると思いますけれども、この辺のところのお考えはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

大賛成です。私が思うのは、イノシシのお肉を、例えば、そばろにするとか、現に京都ではそばろ、イノシシ肉のミートソースを食べたことあるんですね。物すごくおいしいんですね。ですので、弁当ですので、例えば、そばろにするとか、しぐれにするとかというふうにして工夫をすることによって、ぜひイノシシの駅弁を武雄の1つの特産品にしていきたいというふうに思っています。その上で、ぜひこれ新幹線の活用プロジェクトの中でいろんな試食会とか、いろんなことをしていただければありがたいというふうに思っているんですね。みんなでつくる弁当だというふうに思っています。

そして、何も私どもはイノシシだけをしようというふうに思っていないんですね。実はカレーが一番相性がいいのは、若楠ポークであります。ですので、今有田焼カレーをつくっているところと今、おととも会いましたけれども、「一番カレーに合うのは何ですか」と聞いたら、実はポークらしいんですね。ですので、若楠ポークはそのカレーとして有田焼カレーの2匹目のドジョウとして、若楠ポークを活用していくと。世界に誇る佐賀牛、佐賀牛についてはまだいろんな活用があると思いますので、押しなべて3つ並べてしていきたいと、鳥ももちろんありますので、そういった意味で含めてやっていきたいというふうに思っております。

イノシシについては、先ほど申し上げたとおり、駅弁第1号として、九州の第1号として開発をぜひしていきたいというふうに思っております。これうちの担当がちょっとどこかまだわかりませんが、食育課じゃないのかなという気がしますけれども、行政としてもできることはしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

これはもう1つは、もうニュース性ですね。やっぱりそういうことをやっていた。有田の焼カレー、確かにおいしいですけども、そういうことでぜひ開発に着手していったら、九州

でそういうふうな有名になっていただければ、先ほど言いました、市長もおっしゃいました有田の焼カレー、これはもう有名になりつつあります。そういうのに負けないような形でやっていただきたいと思います。

続きまして、観光のほうに移ります。

さっきのも観光のほうなんですけれども、これまで、今までの質問の中でいろんな話が出てきました。不況の話出てきました。「冬来たりなば春遠からじ」と。やっぱり今冬かもしれませんが、春は近いと。実際、もう気候的には春に近寄ってきております。話題の定額給付金も市内にお金が循環するのは大変即効性があることだと思っておりますけれども、景気の刺激になると思います。即効性がある、景気が悪い中、即効性があるから、それも定額給付金という形でされたと思うんですけれども、即効性があるというものの中で、1つちょっとこれは市長にお伺いなんですけど、こういうのはどうかということなんですけれども、4月からE T Cが1,000円になります、E T Cで行くと高速道路が1,000円になります。どこまで乗っても1,000円です。例えば、山口県から武雄に来るのも1,000円、福岡から、土日の観光シーズンのときですけれども、1,000円になります。そういうE T C1,000円時代に、観光の土日ですね、そういう時代のマイカー客の取り込み、これネットでも調べました。私が調べた限りは、このE T C1,000円、マイカー客に対しての、例えば、商業施設ありますよね、1,000円時代にもうかるにはどうしようという、商業施設はいろいろ考えられるところありますけれども、自治体としてE T C1,000円に対しての事業を取り組んでいるところはまだありません。例えば、E T Cを利用して来た客が、例えば、そのE T Cカードで来たという証明をすれば、何らかのいろんな事業とか、イベントじゃないですけども、そういうことができるかと。自治体としてE T C1,000円時代。これはさっき言ったように、即効性があるわけですね。4月からもう来ていますし、ゴールデンウイークも目の前に迫っています。そういう中で、このE T C1,000円時代の行政としての、観光客は巻き込んでもらっても構いませんけれども、全国でまだどこもやっていない、そういうふうな事業をするということは、市長はどのようにお考えになられるでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと今承ったばかりですので、今思うのは、ぜひこれ商工会議所と観光協会と私ども行政で1回ちょっと話をしたいというふうに思っています。そして、これはという案があったら、これはぜひ教えていただきたいと思うんですね。今、私が御質問を聞きながら思ったのは、先ほど山口裕子議員からあったように、障がいをお持ちの方々がつくっておられる物を私どもが例えば買い上げて、そこに例えば、レモングラスなりのポプリを入れて、それをドライブ、レモングラスって結構眠気覚ましにもなるんですよ。ですので、それをお渡し

をするであるとか、いろんなことが多分考えられると思うんですよね、いろんな政策とミックスさせて。ですので、ぜひ非常にいい案だと思いますので、私は取り組むということであれば、日本で最初に取り組むことがニュースバリューが出ると思いますので、なるべく早く検討に着手をして、できればゴールデンウィークに間に合うように打ち出していきたいというふうに思っております。

いずれにしても、一回ちょっと観光協会、そして商工会議所と話し合う場をつくりたいと、このように思っております。貴重な提言をありがとうございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

25番牟田議員

**○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

いい案が出てくると思います。私も考えましたけれども、なかなかいい案が出ないで、これはもう市長に直接お伺いしようと思って。そういうふうに即効性ですね、景気がこうやって落ち込んでいるので即効性。旅館、観光、いろんなところから出てくると、そういう即効性がある、そして、ニュースバリューがあるということで実現していただきたいと思います。

続きまして観光のほうなんですけれども、そういうふうな財源はどうするのか。そういうふうなイベントを行った財源、今言いましたイノシシの弁当の開発とかE T Cのイベント、そして、今度2月14日ありましたバレンタイン企画ですね、素晴らしいイベントがたくさんあると思います。そういう中に財源はどうするのか。やっぱり考えなくてはならないと思います。武雄市には今、観光振興基金というのがあります。観光振興基金、これは給湯会計の積み立ての2分の1をずっとやっていくということで、観光ということを目的とした基金であります。この観光基金2,200万円、こういうときこそそれを、こういう時代だから、こういう大変なときだからこそ、財政出動しなきゃいけないんじゃないかと思えます。積み立てていくだけではない、やっぱり我々も質問するからには財政も考えなきゃいけないんですけれども、こういう時代、国もやっています、アメリカもオバマさん、すごいやつをやっています。武雄も積み立てがせつかく2,200万円あるから、いろんなイベント。もう本当にこれは市長も壇上で今度言われましたように、飛龍窯の灯ろう、素晴らしい企画だと思います。そういう中、もうこういう時代だからこそ財政出動をしていただいて、その観光基金2,200万円出動していただいて、よりよい観光資源にしていきたいと思えますけれども、その点に関してはいかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

この基金の2,200万円を有効に活用して、先ほど出ましたE T C1,000円時代、1,000円使われた方で、これぜひ武雄に泊まっていただく方ですよね、を中心にして何らかのプレミア

ムのプレゼントをする事業をしたいというふうに思っております。この方向で観光協会と商工会議所と調整をいたします。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、市長がそうやっているいろんなイベント、企画をやっていくと。市長はこの3年間で、がばいばあちゃん、いろんなことで、レモングラスで武雄の名前を発信されました。実際、観光大賞ですかね、いただいたということを新聞でも見ましたし、この議会で小池議員もおっしゃってありました。そういう中、せっかく武雄が注目されている。「じゃらん」というリクルートの雑誌があります。旅行雑誌です。その中で九州・山口人気観光地ランキングというのがもうずっと発表されていて、第10回というのが一番新しいんですか、発表されています。そういう中で、満足度が高い観光地ランキング、これは行ったことがある人のことですね。行って、泊まって、帰った人たちのアンケートをもとにしたランキングです。通常ならば、今まではずっと王様がいました。黒川温泉、湯布院、これはずっと1位でした。1位、2位を分け合っています。今回、10回から、この黒川、湯布院の王国が陥落しまして、1位は別のところになりました。1位はわいた温泉、これあんまり言いたくないんですよ、はげの湯です。（発言する者あり）わいた温泉が、行ったことがあるところで満足度が、黒川、湯布院を抑えて1位だそうです。これは例えば、第1回はどの辺にいたかということ、まだずっと下のほうだったんですね。ずっと上がってきて1位になりました。やっぱりこういうのを見ると、何でかとネットで調べたら、やっぱり来た人へのおもてなし。武雄はじゃ何位かと、載っていなかったです。せっかく観光大賞もらって、観光、注目されている。でも、来た人の満足度がやっぱり低い。やっぱり、おもてなし。市長は常々おもてなしという言葉が使われています。せっかく観光大賞もらって、客もふえて、いろんなことで注目されている中、ちなみに呼子が16位に入っていますね。そういう中で、現在、職員が派遣されて一緒にやっている観光協会ですね、そういうところと一体となって対策をしなければいけないと思います。せっかく来ていただいて、ランキングに入っていない。言葉は悪いですけど、呼子に抜かれている。例えば、旅館組合、保養村さん、一体となった、武雄はよかったと言われるような形で取り組まなきゃいけないと思いますけれども、大坪会長が旅館組合さんと協議会をつくって一つで何とか頑張っていらっしゃいますけれども、そういうふうな一体感を持って、この観光の満足度を上げていかなきゃいけないと思いますけれども、これについてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、議会の皆さんたち、そして職員の皆さんたちの努力のおかげで、もう数多くの行政視察、議会視察に全国から今お見えになっていただいています。そのほとんどを私、今対応しておりますけれども、武雄で一番感心したことは何かと聞くと、大体口をそろえて、これは教育委員会のおかげですけれども、小学生のあいさつのすごいですねと。私どもは小学生が観光客、視察客のおもてなしをしているという意味で言うと、これはあいさつ、元気がいいらしいんですね。ですので、これはある意味じゃ、これ言い方語弊があるかもしれませんが、財産だと思っただけです。私たちはこの小学生のあいさつとかおもてなしの気持ちを見習わなければいけない、大人は。そういうふうに思っております。

そういう意味で、私も小さかときから、あいさつだけはするようにというのは学校の先生とか親からもそれだけを言われたですね。ですので、あいさつだけで変わっていく。私が以前、小国に行ったとき、わいた温泉ですよ、感心したのは、もちろん観光に携わる方々もそうだったんですけど、地域住民の皆さんたちから物すごくやっぱりあいさつされるんですね。きょう、うちに泊まっていかなねとか、そこまで、半分冗談だったと思っただけです、言われると、やっぱり悪い気はしないですよ。それが物すごく印象に残っていることもあります。したがって、私たちがしなきゃいけないのは、そういうあいさつ。あいさつだけで変わっていくということはぜひ取り入れなきゃいけない。

それと、私はこれはまだ行ったことありませんけれども、それを実践して24年間日本でナンバーワンの旅館があります。おもてなしのランキングで1番。これはどこかという、北陸の加賀屋の、私はテレビのドキュメンタリー、本を読んだことがありますけれども、とにかくやっぱり従業員の皆様方のあいさつですよ。それと、おじぎの姿勢まで。すべてそういうふうなそこから始まるということがありますので、あそこ1室、高いところになると、もう10万円、20万円でも、もう半年間とか1年先、もう予約がとれない。それくらいはやっている。ですので、そういう意味からして、私どもができる、しなければいけないことは、まず、あいさつ、それが第1番だというふうな思っております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

#### ○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

あいさつ大切ですね、やっぱり。一番最初に会ったときの気持ちの入り方から変わってくると思います。

観光について、いろいろ言いましたけれども、これから観光については、その大賞ももらって、これから伸びていかなきゃいけない分野だと思います。新幹線が来るのを見ながらですね。ぜひ頑張ってくださいと思います。

続いて農業なんですけれども、これはもう先日お伺いした部分の続きなんですけれども、もうすぐ雨期に入ります。6月から田植えが始まり、もちろんもう準備に入っていますけれ



ども、川の井堰、市内には55カ所の井堰があると。その井堰、やっぱり農業には水が絶対必要です。おてんとうさまも必要です。そして、人間の手も必要。その中で、やっぱり水騒動という言葉があるぐらい水はとても重要なものです。この井堰の、前回は質問しましたけれども、改修がそろそろ近づいてきている。例えば、若木町、井堰が何カ所かありますけれども、1つのところの修理ですよ、修理だけで1,500万円ぐらいかかると。これを数十戸の農家で負担というのはやっぱり厳しい。だから何とか、市も厳しい、だから国、県、せつかく財政出動されている時期ですから、国、県にお願いできないものだろうかということをお伺いしましたけれども、その後どうなったかということをお伺いしたいと思います。これは本当に水騒動という言葉があるぐらい水は本当に大切なものです。とても農業をされる方に関しては、本当に関心が高い部分ですので、どういうふうな経過になっているのか、途中経過でよろしいのでお伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

この土地改良事業の維持管理につきましては、昨日も答弁しましたが、非常に今どこもかしこも老朽化が目立っておりまして、要望が多うございます。そういう中で若木町の川古川の水系には7カ所の堰がございまして、これについて昭和58年から平成元年当時につくられたということで、もう20年以上経過しているということで要望がっております。そういうことで、現地を一応調査しておりまして、まず、油圧系の支障によりまして倒れやすくなっているということ、それから、もう1点は、洪水時に転倒がして、制御に支障があるということで倒れにくいとか、そういう問題点ございまして、今専門家にその調査をお願いしております。

そういうことで、この事業については事業費がかなりかかるということで、きのう言いましたように、国が30%、県が30%、残りを市と地元が20%ずつ負担をするという国の制度でございますので、若木町につきましては21年度に申請をする予定で今計画をしております。

以上でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

25番牟田議員

**○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

ぜひお願いしたいと思います。

産業のところの最後の質問になりますけれども、景気が厳しいというのはさっき言いました。そういう中で2点ほどお伺いしたいと思うんですけれども、2点というのは本当はちょっと定額給付金のことなんですけれども、今度は定額給付金は聞くまいかなと思っていたんですけど、一般質問を見た人がちょっと勘違いされている方が多いんですね。私にちょっと

2本ほど電話あって、メールでも1本来たんですけれども、武雄市は商品券で配るとやて勘違いされている方がいらっしゃるんですね。いろんなちょっと聞き漏らして、部分しか見ていなくて。武雄市は商品券でやるのかというふうに勘違いされている方がいらっしゃいます。ぜひそのところを違うんだよというのを簡単に言っていただきたいのが1点というのと、もう1点は、これはもう前から言っています。これは市長にお伺いしたいんですけれども、これから新幹線の工事、例えば国道498号線の工事、いろんな大きな工事が始まります。そういう中で、もちろん武雄市の中のいろんな事業もそうなんですけれども、大きいところにとって、例えば、下請の業者が佐世保から来ている、よそから来ているというのは、やっぱり多く目につくわけですね。これも繰り返しますが、前から言っていた、下請承認届というのを必ず市に出さなきゃいけないんです。これは業者の方からよく聞くと、我々が外に行くときには、物すごい厳しいと。でも、武雄は何でこうどんどんそういうのをぽんぽん承認するんだと。これはもう仕方がないことなんですけれども、やっぱりそういう指導をしていただきたいという声があります。実際、業者さんの声で聞くと、我々がよそに行くときは本当に厳しい、その自治体は地元の業者をできるだけ使うようにということではあるけどということでも、これから大きな事業が来る中で、ぜひ地元業者、この厳しい中、地元業者を育成するためにできるだけ指導をしていただきたいということなんですけれども、この2点を産業の部分の最後にお伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

角企画部長

**○角企画部長〔登壇〕**

定額給付金につきましては、1人当たり1万2,000円、それから18歳以下65歳以上は8,000円のプラスということで2万円になりますが、これは現金、いわゆるお金を支給することによってございますが、その方法は口座振り込みでございます。口座でお金を振り込むと。商品券をお渡しすることじゃございません。そういうことで、4月24日には口座にお金が入るようにいたしたいというふうに思っておりますので、よろしく誤解のないようお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

下請承認のことで御答弁いたします。

今、私が担当しているのは土木工事ですけど、土木工事の場合は市外者の下請承認が出たというときは、極力、元請、親会社の業者に地元の業者をどがんかできんとかと。要するに下請をする場合、極力地元業者を使ってくださいということを指導しております。そしてもう1つは、下請承認の願いには金額も出てくるわけですが、その金額についても、発注単価、

市が発注している設計単価、これと余りにも差がある場合は下請承認を認めないというふうにしております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

では、産業を終わりにして、続きまして、周辺部対策についてお伺ひしたいと思います。

先ほど壇上で言いました各町でも大分減っている。これは4番議員もこの壇上で言われましたけれども、私の地元若木町でも人口はもう、ついこの間まで2,200人を切るばいと、2,000人を切るばいと言って、とんとんと切って、今度はもう1,900人を切るばいと、そういうふうな状況になった。本当に心配になってきます。やっぱり周辺部というのは、例えば、介護比率多いですね。各町、例えば、調べさせていただきましたが、例えば、若木町、地元で言いますと、要支援、要介護の認定を受けている介護者の数だけですけれども、百数十名。これは人口の1割——1割まではいきませんが、それに近づいている。お隣の、例えば、武内町さんはもう200人に迫る勢いで、やっぱり人口の1割に近づいている、要介護、要支援がですね。山内町とか600人に近づいている。そういう状況で、周辺部、子どもが少なく、そういうふうな要支援、要介護の方がますますふえていっちゃう。何とか町を元気にしたいという気持ちは町民、そして、行政側にもあられると思います。

そういう中で、今回の質問は簡単と言えば簡単なんですけれども、我々各地元においても、行政ばかり頼ってもいけない、自分たちも頑張らなきゃいけない。市長がよく産官学とかこう言われますけど、地元も、行政、地元、そして地元組織でも頑張らなきゃいけないというふうに思っております。

そういう中で、いろんな地域を元気にできる、そんな補助事業がいっぱいあるんですね。この前、総務課の課長に出していただきました。いろんな事業があります。ざっと見ただけでも、こういうふうにいっぱいいただきました。もう1つは、例えば、これは自民党の分なんですけれども、地域再生ガイドマップ、これも各種補助金なんかいっぱい載っています。でも、これなかなかわかりにくいですね。この前、総務課に出していただいた、そういう支援事業というのは物すごくわかりやすい。そういう中で、各地元も頑張ろうというふうに各町思っているから、そういう中でいろんな中核組織、区長会もいっちゃれば、そういう協議会もある。そういう中で、こういう事業がありますよと、補助事業がありますよという情報提供を常にしていただきたいと思います。

わからないんですね、どういう補助事業があるというのが。ネット検索します。まちづくり、補助事業、佐賀県と。20万件ぐらい出てくわけですね。もう調べられないんですよ。やっぱり一番のニュースは行政が持っているから、ぜひ各町そういうふう

ないろんな団体があると思いますけれども、情報を定期的に流していただきたいというお願いが1点。今まで余り聞いたことないです。そういうふうな情報が、例えば、公民館に来るとか、その協議会に来るといのは聞いたことがないです。よくあるのが、公民館ばつくりたか、何か補助事業のなかかいねって。こういうのを言って初めてこういうのがありますよと聞くのはよく聞きます。でも、そういうふうないろんな補助事業、本当に使わないともったいないというふうな補助事業があると思いますので、ぜひそういうふうな情報提供を定期的にやっていただけないものかというお願いが1点と、もう1つは、市役所の窓口です。市役所のその窓口。総務課なのか、企画課なのか、男女共同参画課なのか、よくわからないときがあります。あるときは男女共同参画課が見えられます。あるときは企画課が見えられます。あるときは総務課が見えられる。ですから、そういうふうなまちおこしの部分を総括する窓口を一本きちっとつくっていただいて、例えば、そういう補助事業を出すとか、いろんな相談に乗っていただけるとか、そういう窓口を一本化していただきたい。この2点をお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

まず、1点目の情報提供については、実は例えば、トヨタ記念財団であるとか麒麟財団というのは、結構すごくわかりやすいパンフレットがやっぱりあるんですね。私もこれ県に行っていただいてわかったことでもあるので、これちょっとコピーになるかもしれませんが、できるだけ多くの概要、これパンフレットが一番いいと思いますけれども、これは各公民館にぜひ備えつけておきたいというふうに思っています。

それで、ぜひお願いがあるのは、実はそういうパンフレットというのはすぐ時代おくれになっちゃうんですね。長くても、例えば、半年とか、1年というのでまた切りかわっていきますので、先ほど牟田議員がいみじくもおっしゃったように、やっぱりインターネットで調べると非常に早いですね。だから、そういった意味で、ちょっと御高齢者の方々は厳しいのかもしれませんが、そういう意味でこういうのがあるよということについては、行政も頑張りますけれども、ぜひ地域の皆様方でインターネットに非常に近い方々がそういうふうな情報を集めるというのも1つ、これはぜひ行政だけじゃちょっと力不足ですので、この場をかりてお願いをしたいということとはございます。

それと、窓口の件なんですけれども、これもなかなかやっぱりちょっと、率直に言って、難しいなと思っているのは、やはりこういうことをしたいと思っている方々というのは市役所レベルぐらいで言うと、例えば、これは男女共同参画ねとか、あるいはまちづくりということで、結構多くの方々はもう迷わず行けるんですね。これが県とか国になると、なかなか難しいというのはあると思うんですけれども、1つちょっと考えたいのは、県庁で補助金

の集約、各財団からの補助金の集約をしている係があるんですね、県庁に。私も行ったことがありますけれども、そういった係、補助金を相談する係というのは1つつくる必要はあるのかなというのは前から思っていました。ですので、相談窓口じゃなくて、こういう補助金がありますよという情報を集約する係ですよ。そこでどういう補助がありますかという係は、これはつくっていきたいというふうに思います。

それともう1つ、ぜひお願いがあるのは、そこに集中すると、また業務がかなり非効率になりますので、先ほど申し上げたように、目的がはっきりしているときは、ぜひその担当課に御相談をいただければありがたいと思います。そういった意味での幅広い選択肢を我々としては提供していこうというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そういった幅広い窓口やっていただければ幸いです。我々住民側からも手を挙げてともに頑張っていくようなところが多分いっぱいあると思いますので、ぜひそういうふうな設置をお願いしたいと思います。

続きまして、2点目なんですけれども、先日20番議員が言われました消防の件ですね。消防、本当に今やめるときも次を探さないとやめられないというのが物すごくあると思います。実際、お父さんがやめて子どもが入るとか、そういうふうな状況に陥っています。なかなか難しい。ちょっとこれはお伺いなんですけれども、消防の定数ですね。消防の定数なんですけれども、人口は、例えば、我々若木町でいうと、人口は武雄町の何分の1、朝日町の何分の1なんですけれども、消防の定数は多いわけですね。そういうふうな消防の定数とかの見直し等はどうなっているのか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

現在の消防団の定数につきましては、合併前の定数で武雄市が820人、山内町は300人、北方町は350人、これをそのまま踏襲いたしまして現在1,470人というような定数にしております。

この定数の出し方でございますけれども、ポンプ車4台に対して20人とか、小型動力ポンプに対してどれぐらいとか、可住地面積に対してどれぐらいというふうなことではじき出しまして、ほぼその指針に沿った数になっています。ただ、この前の20番議員にもお答えいたしましたけれども、非常に現在そういう団員確保に苦慮をされているというのはもう我々も十分承知いたしております。ただ、この消防団の確保というのは、まさに市民の安全・安心と密接な関係がございます。そういったこともあわせて、今後、地域防災力の低下を防ぐと

いうことを前提に、支援団員の拡充とか部の統廃合、これらを含めて定数をどうするのかということ、これについてはもう消防団と十分協議をする必要があると思いますので、消防団と十分協議をしながら検討を進めさせていただきたいというふうに思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

25番牟田議員

**○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

周辺部対策とか、るる、もう本当先ほど何回も質問したというのも言ってきましたけれども、さっき壇上で武雄町は忘れてるよということを言われましたけれども、武雄町はやっぱりふえているんですね、武雄町。そういう中で、例えば、数年前、どういうことがあったかと言うと、10年ほど前ですかね、御船が丘小学校の増築ですよ。ふえ過ぎて、御船が丘に子どもが多くなって、そこで1億8,000万円ぐらいでしたっけ、何億円かかかりました。そういうことを考えると、武雄に集中するというのはいいことか、悪いことかわかりませんが、集中し過ぎると、そういうふうな学校のとで追加をしなきゃいけないと。例えば、周辺部対策でそういうふうにお金をかけていけば、ひょっとすると地域の小学校とか中学校、教室余っていますので、あいていますので、そういうふうにして散らすことができる事業ができたかもしれない。そういう中で、ぜひ周辺部対策もこれから知恵を絞ってやっていっていただきたいと思います。

いろいろお願いしましたがけれども、我々議員の一般質問によって市民の生活の向上につながれば幸いです。以上で私の質問を終わります。どうもありがとうございました。